

京安全通信 ～安全な学校生活を目指して～

其の七「能登半島地震」発災から1年
～復興に向けて「今」できること～



令和 7年1月

京都市教育委員会事務局 体育健康教育部
京都市立中学校教育研究会 安全教育部会

「能登半島地震」発災から1年が経過しました。最大震度7 (M7.6 深さ16km) を観測した大きな地震でした。京都でも長岡京市で震度4を観測するなど、大変大きな地震でした。石川県を中心に多くの家屋が倒壊したり、火災が発生したりするなどして、多くの被害が発生して1年が経過しました。

現在も、仮設住宅で暮らしている方も多くおられます。また、倒壊した家屋が未だ片付けられず、そのままになっている箇所もあります。

さらに9月には、豪雨災害にも見舞われ、大きな被害が発生し、復興が進まない状況となってしまいました。これらの災害によって、「大切な人」を失い、大きな悲しみを背負っている方も多くおられます。壊れた街をきれいに建て直し、復興させるだけでなく、「心の復興」も大切です。

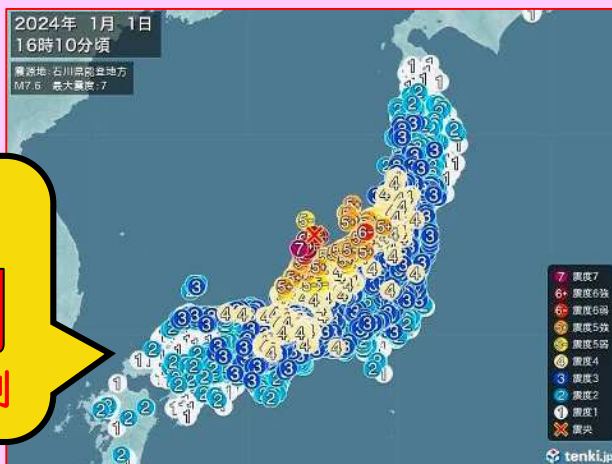
新年を迎え、気持ちも新たに新学期を迎える時期ですが、今一度、被災地能登に思いを馳せ、復興に向けて、「自分に何ができるか」を考えてみましょう。



「能登半島地震」被害の状況など

令和6年1月1日16時10分 発災 最大震度7を観測
石川県能登地方 震源の深さ約16km M7.6 (暫定値)

この地震により石川県羽咋郡(はくいぐん)志賀町(しかまち)で最大震度7を観測したほか、能登地方の広い範囲で震度6弱以上の揺れを観測するなど、被害を伴った。



**石川県で
震度7を観測**
京都府長岡京市で震度4を観測

犠牲者 504 人・住宅被害15万棟

死者数: **504人** (うち災害関連死276人)
行方不明者: 2人

※ 現在も関連死の審査が続いているため、犠牲者はさらに増える見込み。
(令和6年12月27日時点)

能登半島地震と9月の記録的豪雨の影響で
仮住まいや避難を余儀なくされている石川県の住民
少なくとも…**2万699人**

地震による住宅被害は、石川県、新潟県、富山県、福井県を中心に、計15万棟を超えた。被災者の生活再建に向けた支援の充実が求められている。





能登半島の仮住まいや避難の状況

仮住まい・避難2万人超

輪島市

仮設住宅:4479人
1次避難(地震・豪雨)208人

穴水町

仮設住宅:1068人

志賀町

仮設住宅:701人



珠洲市

仮設住宅:3219人
1次避難(地震・豪雨)9人

能登町

仮設住宅:1098人

七尾市

仮設住宅:1196人

みなし仮設住宅

石川県 7407人	新潟県 10人
富山県 72人	福井県 28人

二次避難(豪雨)18人

みなし福祉避難所344人

県外の公営住宅

33都道府県
497人

※「みなし仮設住宅」とは？

災害によって居住する住宅が損壊し、住む場所を失った被災者に対して提供される一時的な住まいのこと。

※「みなし福祉避難所」とは？

高齢者等の避難者受入れを行っている施設の中で、一定の要件を満たすことで、福祉避難所とされている施設のこと。

※ 参考：内閣府防災情報 HP 各種報道機関(人数は令和6年12月27日時点)



「支援」私たちが「今」できることを考えよう

発災から1年が過ぎ、今なお、避難所や仮設住宅での生活を余儀なくされている方がたくさんおられます。被災地では、まだまだ多くの支援が必要な状況で、国や行政からの支援だけでなく、各地からの多くのボランティア団体などが支援にあたっています。直接被災地へ出向いて、支援の手を差し伸べることはできなくとも、遠く京都からできる支援の方法を模索できるといいですね。

支援をするにあたって、一番手軽にできることは、被災地の状況をまずは「知る」ことです。月日が経つにつれ、求められる支援の形は変化していきます。テレビやインターネット等で被災地の状況を調べ、まずは「知る」ことから始めましょう。

その上で、中学生として、被災地支援「何」ができるか？を考えることが大切です。そのためには、被災された方の気持ちに寄り添うことが重要です。「支援」は時間が経つにつれてニーズが変化します。被災地の状況を常に把握(理解)しながら、自分のできることを考えてみましょう。

参考にしよう 保健の教科書「共に生きる」(P.74~75)

○心のケア ○避難所生活とボランティア ○地域のきずな(自助、共助)

○読み物資料「中学生が深めた地域のきずな」

- ・災害発生時の避難経路を中学生と高齢者が一緒に確認する。
- ・自宅の災害対策などを聞き取る。
- ・昭和南海地震(1946年発生)のときの体験談を聞かせてもらう。

助け合い
支え合い



支援のヒントが
載っています!

きずな

中学生と高齢者のコミュニケーションが深まり、地域のきずながたしかなものに!

※ 参考：政府広報オンライン「被災地を応援したい方へ 災害ボランティア活動の始め方」